

別添②

第1回全国医師会産業医部会連絡協議会（令和2年5月31日）

質問用紙

（埼玉県医師会）

質問が無い場合には、「質問なし」として提出をお願いします。

これまで、当県の治療と仕事の両立支援に向けた取り組みとして、がん拠点病院において両立支援推進のための講演会等を開催しているが、産業医と主治医との連携は十分な状況とは言えない。一方、令和2年度の診療報酬改定において治療と仕事の両立に向けた支援の充実として、療養・就労両立支援指導料について企業から提供された勤務情報に基づき、患者に療養上必要な指導を実施するとともに、企業に対して診療情報を提供した場合について評価することとなった。また、3か月間隔の算定が可能となり、対象疾患にがん疾患以外に、脳血管疾患、肝疾患、指定難病が追加された。このことにより両立支援がより一層充実することと思われる。しかし、主治医への情報提供など産業医への負担は増加するものと思われる。これまで、産業医からの情報提供が遅れるなど指摘されており、両立支援における主治医と産業医の連携がますます重要となる。この連携の強化並びに両立支援推進のために産業医の役割についてご教授ください。

第1回全国医師会産業医部会連絡協議会（令和2年5月31日）

質問用紙

（ 京都府 医師会 ）

質問が無い場合には、「質問なし」として提出をお願いします。

産業医の偏在への対策についてご質問します。

令和元年度の京都地域産業保健センター登録医師の出務実績を確認すると、京都市内の京都上地域産業保健センター1.4回/人である一方、京都府北部の丹後地域産業保健センターでは5.9回/人、京都府南部の京都南地域産業保健センターでは3.6回/人となっており、産業医の少ない丹後、府南部での負担増大が危惧されています。

また府南部の地区医師会では、企業からの産業医の依頼に対して自地区での推薦がかなわず、近隣の地区医師会への再依頼となった事例がありました。京都府医師会産業医部会では地区を超えた連携を推進しているものの、京都市内の開業医が丹後へ産業医業務で出向くことは非現実的であり、このままの状態が続けば、産業医の少ない地域での産業保健活動が困難となる可能性があると考えています。

日本医師会が進める産業医と事業場のマッチングの中で、このような問題への具体策の検討状況や今後の展望についてご教示いただければ幸いです。

第1回全国医師会産業医部会連絡協議会（令和2年5月31日）

質問用紙

（和歌山 医師会）

質問が無い場合には、「質問なし」として提出をお願いします。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、認定産業医更新の為の講習会の中止が認められ、予定通り単位が取得出来ない場合や、数少ない講習会出席の為に無理をして体調不良でも出席しなくてはならない事態が想定されますので、この事態を鑑み

- ① 5年の認定期間を6年に延長する。
- ② 日医ウェブサイトを用いた講習会の配信等で学習する事で単位取得が出来る様にする。

等の検討を頂ければと存じますが如何でしょうか？